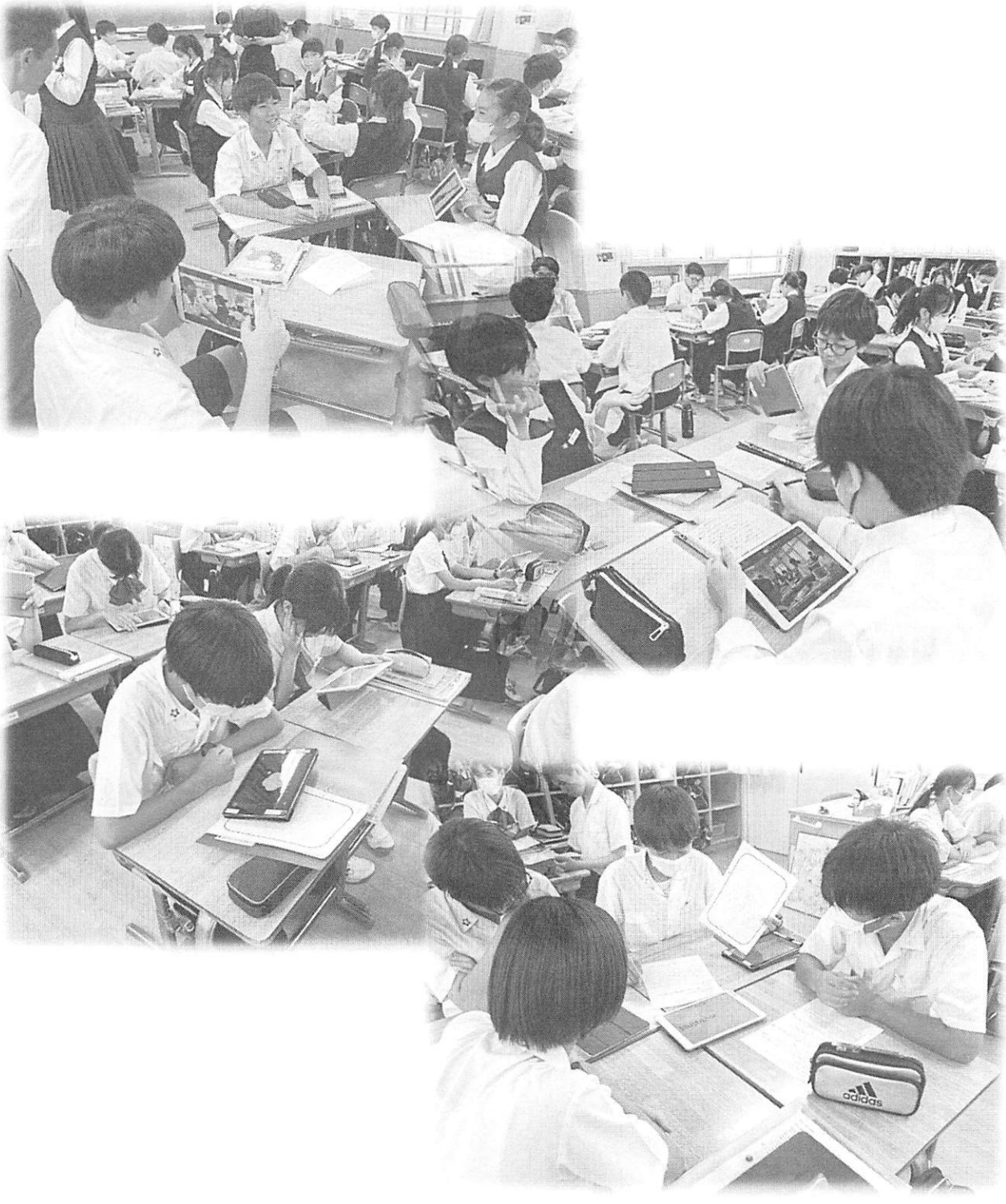
英語科

教科領域別研究テーマ

【主体的・対話的で深い学びの中で、
エージェンシーを発揮させる指導と評価の工夫】



主体的・対話的で深い学びの中で、エージェンシーを発揮させる指導と評価の工夫

実践者　福岡　拓矢、向井　俊博、目崎　美香
愛媛大学研究パートナー　池野　修、立松　大祐

1　研究テーマ設定の理由

予測困難で不確実な時代がやってくると言われている現代では、既存の知識や経験、誰かに指示されたことを行うだけでは、現状を変えられない可能性がある。自分たちの未来をよりよいものにするためには、自分で目標を設定し、課題に取り組むとともに、その取組を振り返り、改善していきながら、現状をよりよく変えていく力（エージェンシー）が求められる。外国語教育では、主体的・対話的で深い学びの実現を図る際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実が求められている。学習において生徒にエージェンシーを発揮させるためには、生徒自身が他者と協働しながら学習に熱中する機会や、自分の学びを把握する力（メタ認知力）が必要不可欠である。

本研究では、英語を通して生徒自身にエージェンシーを発揮させるために、他者と協働しながら学習を進め、自らの学びを把握し、目標を設定して課題に取り組みながら振り返り、よりよい学びに向かって自己調整できる場面を授業中に設定したい。そうすることで、より広い世界を視野に入れた変革を起こす力を持った生徒の育成ができると考え、本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

(1)　主体的・対話的で深い学びを実現する単元構想

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動を取り入れることが大切である。そのために、CAN-DO リストを修正・改善し、定期的に学びの成果を表現する場を設定する必要がある。また、生徒が小学校で学んだことを振り返ったり、中学校で発展させたりして系統的に学習を進めていく必要がある。授業では、 生徒同士や教師との英語でのやり取りを大切にし、帯活動や新文型の導入時にその場面を十分に設定したい。そして、本文で扱われている内容に関連するテーマを取り上げたり、必然性のある問いを設定したりして、「聞くこと」や「話すこと［やり取り］」の活動にも力を入れたい。また、小学校での外国語学習との円滑な接続や発展した言語活動を設定することで、「聞くこと」や「話すこと［やり取り］・［発表］」の力を向上させたい。

(2)　生徒の主体的な学習への参加が可能な授業

教科書の内容や教師が提示するテーマを踏まえて、生徒に「聞くこと」「話すこと［やり取り］・［発表］」「読むこと」「書くこと」の活動やそれらが統合された活動に取り組ませたい。また、生徒と教師がやり取りをしたり、生徒が協働学習を行ったりしながら、教師が生徒と共に学習課題や学びの成果を表現する場を設定していきたい。そうすることで、生徒が主体的に授業へ取り組み、仲間と共に学び合い、学習内容を深め合う力を身に付けさせたい。

(3)　プロセスを重視した学習の評価・改善

次時の活動をよりよいものにするために、活動中に相互評価をさせたり、活動後に自己評価をさせたりする場面を設定した。その際、ChatGPT（AI）や ICT を活用することで、「話すこと［やり取り］・［発表］」の力を可視化し、自己の学習プロセスを客観視し、調整する力を身に付けさせたい。さらに、CAN-DO リスト形式の到達度目標と関連させ、自分の能力を見極め、不足している部分を生徒自身が把握できるようにしたい。

3　研究の実際

(1)　実践と検証　その１（実践者：福岡　拓矢）

ア　指導の計画

(ア)　単元名

Foreign Artists in Japan（NEW HORIZON English Course 1）

(イ)　単元目標

○代名詞や疑問詞 which、whose を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。
「知識及び技能」

○人や文化などについて知るために、その人やものについて、簡単な語句や文を使ってコミュニケーションを行うことができる。
「思考力、判断力、表現力等」

○人や文化などについて知るために、その人やものについて、簡単な語句や文を使ってコミュニケーションを行おうとしている。
「学びに向かう力、人間性等」

(ウ)　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
［知識］ ・代名詞や疑問詞 which、whose を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ［技能］ ・代名詞や疑問詞 which、whose などの理解をもとに、人やものについて話される内容を聞き取ったり、やり取りをしたりする技能を身に付けている。	人や日本の文化などについて知るために、その人やものについて、簡単な語句や文を使ってコミュニケーションを行っている。	人や日本の文化などについて知るために、その人やものについて、簡単な語句や文を使ってコミュニケーションを行おうとしている。

(エ)　評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
ニュージーランドから来た ALT の先生に、もっと日本について知ってもらうために、日本の有名な人について、プレゼンテーションをすることになった。絵や写真を使い、質問やクイズを出しながら、楽しくプレゼンテーションを行い、ALT の先生からの質問に答えながら、その人や日本文化について分かりやすく伝えよう。	○生徒同士のやり取りの観察 ○ワークシート ○タブレットの動画 ○振り返りシート

(オ)　パフォーマンス課題のルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	適切な表現を用いて、誤りのない英語でやり取りを続けている。	人物や日本のことについて、相手に質問をしながら、分かりやすく述べ、相手からの質問に答えながら英語でやり取りを続けることができる。	人物や日本のことについて、相手に質問をしながら、分かりやすく述べ、相手からの質問に答えながら英語でやり取りを続けようとしている。
B	適切な表現を用いて、簡単な英語でやり取りを続けている。	人物について相手に伝え、相手からの質問に答え、やり取りを続けることができる。	人物について相手に伝え、相手からの質問に答え、やり取りを続けようとしている。
C	B を満たしていない	B を満たしていない	B を満たしていない

(カ)　指導計画（全８時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	評価規準（評価方法）
1	・代名詞を用いて、自分と相手以外の人が何をするか聞き取ったり、質問したりする。	知	・代名詞を理解し、適切に運用している。（ワークシート・タブレット）
2	・Which を用いて、文化や言葉、食べ物などについて知るために、どちらであるか尋ねたり答えたりする。	知	・Which を用いた文構造を理解し、適切に運用している。（ワークシート・タブレット）
3	・Whose を用いて、持ち主がだれであるかを知るために、だれのものか尋ねたり答えたりする。	知	・Whose を用いた文構造を理解し、適切に運用している。（ワークシート・タブレット）

4	・教科書 Part1の内容理解を通して、日本に住む外国人がどのような人か説明する。	思	・本文の内容を理解して、登場する外国人について説明している。　（ワークシート）
5	・教科書 Part2の内容理解を通して、日本の文化について話す。	思	・本文の内容を理解して、登場人物や日本の文化について話している。（ワークシート）
6	・教科書 Part3の内容理解を通して、持ち主が誰であるかを知るために、誰のものかを尋ねたり答えたりする。	思	・本文の内容を理解して、人の持ち物について、誰のものか尋ねたり答えたりしている。（ワークシート）
7 本時	・日本の有名な人物について級友にプレゼンテーションをして、簡単な英語でやり取りをする。	態	・日本の有名な人について級友にプレゼンをして、簡単な英語でやり取りをしようとしている。（タブレット・ワークシート）
8	・ALTの先生に、日本の有名な人についてプレゼンテーションを行い、簡単な英語でやり取りをする。	知 思 態	（パフォーマンス評価）

イ　指導の実際（7／8時間）

（ア）　主題

日本の有名な人物について級友にプレゼンテーションをして、簡単な英語でやり取りをする。

（イ）　ねらい

○日本の有名な人物について級友にプレゼンテーションをして、簡単な英語でやり取りをしようとすることができる。

○自分のプレゼンテーションや英語でのやり取りを振り返り、次時のパフォーマンステストに生かそうとしている。

（ウ）　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働き掛け ・生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 チャット活動をした。（ペア）	7	○“What is your favorite movie?”を用いて、質問したり答えたりさせた。 A: What is your favorite movie? B: I like Totoro. How about you?	○会話を続けさせるために、生徒の会話の中から質問を取り上げ、全体に共有した。
CAN-DO: 級友に自分が選んだ人物について紹介し、簡単な英語でやり取りをしよう。			
2 目標設定をした。（個人・ペア）	3	○振り返りシートに今日の自分自身の目標を書いて、ペアで共有させた。 ・相手に分かりやすい英文を作る。 ・相手に伝わる英語を話す。	○授業への見通しを高めるために、振り返りシートに自分自身の目標を書かせた。
3 紹介文の作成をした。（個人→ペア）	10	○自分が級友に紹介したい人物について、英文を考え、プレゼンテーションを作成させた。 ・Look at this picture. Whose movie is this? This is Shinkai Makoto. He is a movie director.	○相手にどのように伝えれば良いか考えさせるために、評価基準を示した。
4 質問作りをした。（ペア→全体）	10	○級友の紹介文を聞いた後に、どのような質問をすればいいか考えさせた。 ・What food does he eat? ・Do Japanese people like his movie?	○質問を考えさせるために、例を示した。
5 やり取りと振り返りをした。（グループ→個人） 	15	○級友に絵や写真を見せ、質問やクイズを出しながらプレゼンテーションを行い、英語でやり取りを続けた。 A: Do you have any questions? B: Which does he have, a cat or a dog? ○タブレットと自己評価シートを用いて、やり取りを振り返った。 ・相手の質問に答えることができた。	○生徒の発話を促すために、机間支援をして声を掛けた。 ◎相手に分かりやすくプレゼンテーションをし、やり取りをしようとしていたか。（観察・タブレット・ワークシート）
6 本時の学習の振り返りをした。（全体）	5	○本時の最初に立てた目標を見て、今日の学習を振り返った。	○自らの活動を客観的に振り返るために、振り返りシートを書いた。

ウ 生徒の学びの実際

(ア)　主体的・対話的で深い学びを実現する単元構想

単元の最初に資料1の CAN-DO リストと単元の最後に行うパフォーマンス課題について生徒と共有することで、単元の見通しを持たせた。そして、CAN-DO リストの学習達成目標に準じて、授業の最初に行う帯活動として、英語での会話活動のトピックを生徒に提示した（資料2）。吉田他(2018)は、「帯活動を日課として位置付けられることで、学習者にとって慣れた活動になり、学びの定着を図ることができる。」と述べている。授業後のアンケートでは、帯活動が英語の力を伸ばすために有効であるという回答が見られる。（資料3）生徒は、帯活動を通して、英語でのやり取りを続ける力を伸ばすことや英語の表現の幅を広げ、英語のやり取りを続ける力を伸ばしている。また、今回のパフォーマンス課題に取り組む中で、これまで帯活動で使った表現をプレゼンテーションの中に取り入れていた生徒が多くいた。CAN-DO リストを軸に、生徒が興味・関心のある題材を帯活動として取り入れる単元構想により、生徒の深い学びが実現できたと考えられる。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標				
聞くこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	読むこと	書くこと
有名な人について、話される内容を聞いて、主要な内容を聞き取ることができる。	有名な人について、尋ねたり答えたりすることができる。	有名な人について、発表することができる。	有名な人について、話される内容を読んで、主要な内容を読み取ることができる。	有名な人について、つながりのある文章を書くことができる。

資料1　本単元の CAN-DO リスト

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目
Who is your favorite singer?	This is Aimyon. Do you know her?	Which does Ohtani Shohei have, dogs or cats?	Whose doll is this?	Who is your favorite Japanese athlete?	What is your favorite song?	What is your favorite movie?

資料2　CAN-DO リストをもとにした帯活動のトピック

・毎回違う題で近くの人と会話することで、様々なパターンの英語能力が身に付くと思った。
・最初の話題から話を広げて会話を続けたり、話す内容を工夫したりと、英語を話す上での対話力が身に付いた。
・質問を英語で考えたり、質問に答えたりすることで、英語での話し方や文の作り方が鍛えられた。
・お互いの表現方法を知ることができ、対話力と語彙力を高めることができた。
・英語を話すことに慣れてきて英語を話す時の「間違えるかもしれない」という不安感がなくなった。

資料3　授業後のアンケート

(イ)　生徒の主体的な学習への参加が可能な授業

今回のパフォーマンス課題は、「聞くこと」「話すこと[やり取り]・[発表]」を取り入れた統合的な活動である。授業の中でペアやグループ活動を多く取り入れ、プレゼンテーション作成やその練習をさせる場面を設定した。その中で、生徒が協働的に学習に参加する姿が見られた。中嶋（2023）は、「協働学習は、そのプロセスにおいて互いに良い影響（恩恵）を与え合い、生産的、創造的な作業であり、参画型（最初から互いの考えを出し合い、関わりを大切にする）である。」と述べている。資料4は、生徒 A の発表の練習を行った後の会話である。生徒 B は生徒 A の発表を聞いて、自分のスライドに取り入れたい表現に気が付き、生徒 A がアドバイスをした。また、生徒 B は生徒 A の発表を褒め、写真を入れると良いとアドバイスをした。そして、お互いの発表がよりよくなるように練習を続けている。パフォーマンス課題では、生徒 A は紹介する選手が好きな食べ物の写真を取り入れ、更にスライドを工夫していた。生徒 B も生徒 A から学んだ表現を取り入れていた（資料5）。生徒同士が協働しながら学習へ参加することが、生徒自身のエージェンシーを発揮させる指導を展開する上で重要な要素の一つであると考えられる。

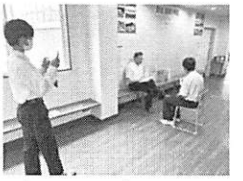
生徒 B：自分も日本のことについて英語で伝えたいな。日本人が知ってる、みんな知っているって、何て言ってたっけ、Japanese know で、ええっと。
生徒 A：All Japanese know her.だよ。

生徒 B:いいね。すごい。じゃあえっと、All Japanese know him. B のは完璧。
生徒 A:いやあ、写真を増やした方が良いと思う。
生徒 B:確かに、食べ物の写真あったら分かりやすいね。
生徒 A:ああ、Which のところ。後は質問に答えないと。頑張ろう。もう一回練習しよう。
生徒 B:先生から出そうな質問考えるね。後で僕のも聞いて。



資料４　生徒同士の会話の抜粋

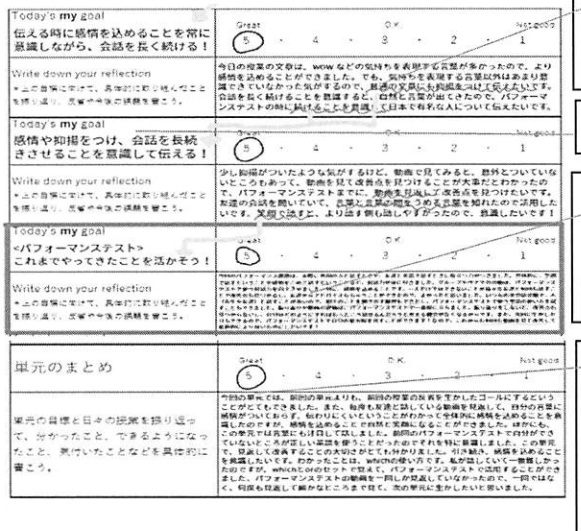
生徒 B: Look at this picture. Whose glove is this?
ALT: Ohtani Shohei?
生徒 B: Yes. This is Ohtani Shohei's glove.
ALT: Nice.
生徒 B: All Japanese people know him.
ALT: Yes.
生徒 B: He is from Iwate. He likes yakiniku. He doesn't like tomato. He has a dog.
ALT: Right:
生徒 B: Which does he like, purple or pink? Do you know?
ALT: Umm. Purple?
生徒 B: Yes: He likes purple.



資料５　生徒 B のパフォーマンス課題の抜粋

(ウ)　プロセスを重視した学習の評価・改善

授業では、生徒のメタ認知能力を向上させるために、毎時間振り返りシートを活用している（資料6）。授業の最初に自分自身の目標を立てさせ、授業の終わりに本時の学習成果を書かせている。また、自分の活動を客観的に振り返らせるために、生徒同士で英語の使用状況をタブレット PC で撮影し合い、振り返りながら学習を進めていく場面を設定している。胡子(2016)は、「メタ認知能力とは、自分自身の力を客観視して計画を立てて対処する能力である。メタ認知を働かせることにより、誤りを望ましい方向に軌道修正することができ、自分の弱点を補いパフォーマンスを向上させることが可能だ。」と述べている。生徒の振り返りシートでは、前時の授業を振り返り、本時の課題を見付け、目標を立てて学習に取り組んでいた。授業の終わりには、本時の活動を振り返り、自分が立てた目標に対しての反省や次時への課題を書くことができていた。また、パフォーマンス課題の練習やテストでの活動をタブレットで撮影して、振り返らせることで、生徒が客観的に自分のパフォーマンスを評価し、次の活動に生かすことができていた。振り返りシートや ICT を活用した動画での振り返りが、自己の学びを修正・改善するためのツールとなり、次の学びに向かう力を高めることができたと考えられる。また、これらのシートや動画を教師側が評価し、指導の改善を図ることで、教師自身も、よりよい学びについて追究する姿勢を大切にしたい。



Today's my goal
伝える時に感情を込めることを常に意識しながら、会話を長く続ける！
Great 5 · 4 · 3 · 2 · 1 OK Not good
Write down your reflection
＊上の目標に対して、具体的に取り組んだことを振り返り、反省や今後の課題を書こう。
今日の授業の文章は、wow などの気持ちを表現する言葉が多かったので、より感情を込めることができました。でも、気持ちを表現する言葉以外はあまり意識できていなかった気がするので、普通の文章にも抑揚をつけて伝えたいです。会話を長く続けることを意識すると、自然と言葉が出てきたので、パフォーマンステストの時に同じことを意識して日本で有名な人について伝えたいです。

Today's my goal
感情や抑揚をつけ、会話を長続きさせることを意識して伝える！
Great 5 · 4 · 3 · 2 · 1 OK Not good
Write down your reflection
＊上の目標に対して、具体的に取り組んだことを振り返り、反省や今後の課題を書こう。
少し抑揚がついたような気がするけど、動画で見てみると、意外とついていないところもあって、動画を見て改善点を見つけることが大事だとわかったので、パフォーマンステストまでに、動画を見返して改善点を見つけていです。友達の会話を聞いていて、話題と意見の聞き方の表現を知れたのでよかったです。笑顔で話すと、より話す側も話しやすかったので、意識したいです！

Today's my goal
<パフォーマンステスト>
これまでやってきたことを活かそう！
Great 5 · 4 · 3 · 2 · 1 OK Not good
Write down your reflection
＊上の目標に対して、具体的に取り組んだことを振り返り、反省や今後の課題を書こう。
[illegible]

単元のまとめ
Great 5 · 4 · 3 · 2 · 1 OK Not good
単元の目標と自分の授業を振り返って、分かったこと、できるようになったこと、気付いたことなどを具体的に書こう。
今回の単元では、前回の単元よりも、前回の授業の反省を生かしたゴールにすることができました。また、毎時も友達と話している動画を見返して、自分の言葉に感情があまり入っていなくて、伝わりにくいということがわかって全体的に感情を込めることを意識したのですが、感情を込めることで自然と笑顔になることができました。ほかにも、この単元では言葉にも注目して話しました。前回のパフォーマンステストで自分ができていなかったことが正しい英語を使うことだったのでそれを特に意識しました。この単元で、自分の動画や振り返りシートを見返して改善することの大切さがとても分かりました。引き続き、感情を込めることを意識したいです。わかったことは、which の使い方です。私が話していて一番難しかったのですが、which, who のセットで覚えて、パフォーマンステストで活用することができました。パフォーマンステストの動画を一回しか見返していなかったので、一回ではなく、何度も見返して細かなところまで見て、次の単元に生かしたいと思いました。

普通の文章にも抑揚をつけて伝えたいです。会話を長く続けることを意識すると、自然と言葉が出てきたので、パフォーマンステストのときに会話を続けることを意識して、有名な日本人について伝えたいです。

感情や抑揚をつけ、会話を長続きさせることを意識して伝える。

振り返りや動画の評価は、パフォーマンステストで一番役に立ちました。振り返りをしないと、改善点も見つからないし、自分はどのようにすればもっと英語を話せるようになるのか考える機会がなくなるからです。これからも動画を見て改善して最終的によりよいものにしたいです。

今回の単元では、前回の単元よりも、前回の授業の反省を生かしたゴールにすることができました。また、友達と話している動画を見返して、自分の言葉に感情があまり入っていなくて、伝わりにくいことが分かり、全体的に感情を込めることを意識しました。感情を込めることで自然と笑顔になることができました。他にもこの単元では、言葉にも注目して話しました。前回のパフォーマンステストで自分ができていなかった、正しい英語を使うことを特に意識しました。この単元で、自分の動画や振り返りシートを見返して改善することの大切さがとても分かりました。

資料６　振り返りシート

(2) 実践と検証　その２（実践者：向井　俊博）

ア　指導の計画

（ア） 単元名

Universal Design（NEW HORIZON English Course 2）

（イ） 単元目標

○〈疑問詞+to 不定詞〉と〈主語+be 動詞+形容詞+that 節〉の文を用いて、ユニバーサルデザインのものの説明をしたり、その発表を聞いて感想を述べたりすることができる。「知識及び技能」

○誰もが暮らしやすい社会のために、どのようにしたら良いかについて、英語で話したりやりとりをしたりすることができる。「思考力、判断力、表現力等」

○誰もが暮らしやすい社会について、どのようにしたら良いかについて、英語で話したりやりとりをしたりしようとする。また、その話題について英語で積極的にやり取りをしようとし、自分の英語学習の達成度の振り返りをしようとする。「学びに向かう力、人間性等」

（ウ） 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 〈疑問詞+to 不定詞〉と〈主語+be 動詞+形容詞+that 節〉の特徴やきまりを理解している。 [技能] 上記の文法を用いて、ユニバーサルデザインのものの説明をしたり、その発表を聞いた感想を述べたりする技能を身に付けている。	誰もが暮らしやすい社会について、自分の考えや感想などを伝えるために、ユニバーサルデザインの提唱者に関する英文を読み、その概要を捉えようとする。また、身の回りのユニバーサルデザインのものについて、紹介したり、その発表を聞いたりして、だれもが暮らしやすい社会について、自分の考えや感想などを伝え合っている。	誰もが暮らしやすい社会について、自分の考えや感想などを伝えるために、ユニバーサルデザインの提唱者に関する英文を読み、その概要を捉えようとしている。また、身の回りのユニバーサルデザインのものについて、紹介したり、その発表を聞いたりして、だれもが暮らしやすい社会について、自分の考えや感想などを用いて伝え合おうとしている。

（エ） 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたはユニバーサルデザインの商品を売っている会社員です。自社の商品を海外に売り込みに行くことになりました。相手の人がその商品を買いたいと思うようなプレゼンテーションを行ってください。その際に、ユニバーサルデザインの優れている点や必要性を説明しましょう。	○360 度カメラの動画 ○タブレットの動画 ○振り返りシート ○ワークシート

（オ） 指導計画（全12時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	評価規準（評価方法）
1	Unit 5 Preview、Scene① ・〈疑問詞+to 不定詞〉を用いて、自分がやり方を知っていることを表現できる。	知	・〈疑問詞+to 不定詞〉を用いて、自分がやり方を知っていることを正確な英語で伝えている。（ワークシート）
2	Unit 5 Scene② ・〈主語+動詞+目的語+疑問詞+to 不定詞〉を用いて、人にやり方を教えることについて、英語で表現できる。	知	・〈主語+動詞+目的語+疑問詞+to 不定詞〉を用いて、自分がやり方を知っていることを正確な英語で伝えている。（ワークシート）
3・4	Unit 5 Read&Think① ・〈主語+be 動詞+形容詞+that 節〉を用いて、自分や友達が嬉しいと感じたことなどを英語で表現できる。 ・ユニバーサルデザインに関するメグの発表をリテリングすることができる。	知 態	・〈主語+be 動詞+形容詞+that 節〉を用いて、自分がやり方を知っていることを正確な英語で伝えている。（ワークシート） ・メグの発表の内容を、ピクチャーカードを用いてリテリングしている。（観察）
5・6	Unit 5 Read&Think② ・ロナルド・メイスのユニバーサルデザインに関する功績の文章の概要を理解することができる。 ・リテリングしたり、自分の考えを表現したりできる。	知 態	・ロナルド・メイスのユニバーサルデザインに関する功績の文章の概要をまとめようとしている。（教科書） ・リテリングするために、英文を繰り返し読んだり、自分の考えを英語でまとめたりしようとしている。（観察）

7	・身近なユニバーサルデザインのものを英語で紹介することができる。	知	・本単元で学んだ文法を用いて、身近なユニバーサルデザインを説明したり、感想を述べたりしている。（ロイロシート） 〈支援〉既習の文法が正しく使われているよう、英文の原稿を確認する。
8 ・ 9	・ユニバーサルデザインについての話合いを行うための準備をする。 ・ジグソー学習を通して、正しい表現で話せるよう練習する。	思 態	・物語を繰り返して読んだり、読み返したりしながら、内容を理解したり、自分の考えをまとめたりしている。（観察） ・キーワードやイラストを用いて自分の考えが言えるよう繰り返し練習している。（観察）
10 本時	・リテラチャー・サークルを通して、ユニバーサルデザインの内容について話合いを行う。 ・ユニバーサルデザインについて、話し合ったことをオーストラリアのセントアンドリューズ校の生徒と話し合う。	態 思	・ユニバーサルデザインについて感じたことや考えたことを、正しい英語で話している。（360度カメラ・タブレット） ・ユニバーサルデザインについてグループやネイティブの生徒と質問し合ったり応答し合ったりしている。（360度カメラ・タブレット） 〈支援〉話型シートや定型句表現リストを持参させ、会話を継続させる。
11	・ジグソー学習のメンバーと、文字起こしを見ながら、できたこと・できなかったことの振り返りを行う。	態	・自分や同じ役割のメンバーの話した英文をよく見て、それぞれの目標が達成できたかどうかを客観的に分析している。（観察）
12	・パフォーマンス課題 ・単元を通して学んだことを振り返りシートに記入する。	思 態	・パフォーマンス評価（ロイロシート） 〈支援〉自分の考えをまとめたマッピングやワードリストを確認させ、自分の考えをキーワードを基に言えるよう助言する。

【メタ認知力の向上・第8～11時】
リテラチャー・サークル(LC)を行う前にジグソー学習を行った。同じ役割同士で集まり、自分が話す内容を確認し合い、どのようにすれば話合いをうまく進めることができるかを考え、各自が目標を設定した。LC後に文字起こしを見ながら、目標が達成できているかを確認し合った。

【メタ認知力の向上・第12時】
単元の最後に振り返りシートのCAN-DO リスト等を見て振り返りを行った。生徒が自分のできること・不十分なことを確認し、次の単元で克服すべき課題を確認させた。

（カ） 指導の実際（10／12時間）

a 主題

Why do you think universal design is important？ ～Through the idea of Ronald Mace～

b ねらい

○ユニバーサルデザインがどうして大切かについて感じたことや考えたことを、質問し合ったり応答し合ったりすることができる。

○オーストラリアのセントアンドリューズ校の生徒とユニバーサルデザインについての話を行い、即興で質問に答えたり、質問したりことができる。

c 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働き掛け・生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 英語で問答ゲームをした。（ペア）	4	○ “What is your favorite example of Universal Design？” のテーマで話したり答えたりしよう。 A:My favorite one is this ramp. B:Where is it？ A:At the entrance of our school. B:Why is it your favorite？ A:Because it is easy to enter our school. The lamp allows students to enter here easily.	○相手に興味を持たせるために写真を用意させた。 ○内容を深めるために、5W1Hを意識して質問させた。

CAN-DO	Why do you think universal design is important?~Through the idea of Ronald Mace~		
2 リテラチャー・サークルをした。 （グループ）	18	○ユニバーサル・デザインについて英語で話そう。 ・サマライザーが要約を説明した。 ・イラストレーターがイラストを説明した。 ・クエスチョナーが質疑応答をした。 ・コネクターが自分の経験を話した。 ・まとめの話合いを行い、ロナルド・メイスの考えを読んで感じたことを話し合った。	○事前に問いを考えさせることで、英語の苦手な生徒も会話を継続しやすくさせた。 ◎ユニバーサルデザインについて意見を述べたり質疑応答したりしているか。 （発話棒・360度カメラ）
3 全体で感想を共有した。 （個人・全体）	6	○班で話し合ったことを共有しよう。 ・We need Universal Design because we want to make a better society for everyone. ・When I get old, I want to keep moving. ・It is important to use universal design products.	○多様な考えを知ったり、内容を深めたりするために、教師が切り返して質問した。
4 セントアンドリューズ校の生徒と英語で話した。 （グループ）	17	○学んだことを紹介して、相手の考えを聞こう。 JS: Hello. I'm○○.I'll tell you about a Japanese Universal Design product. This is a jar opener. This is my favorite examples of Universal Design. I can show you how to use it. An old jar is often hard to open、but if we use it, we can open this product easily. Thank you. AS: It looks nice. How much is it ? JS: It's 108 yen. It's one in Australian dollars. AS: Wow. How many colors ? ・・・	○英語で話合いができるよう、有用な表現や話型を参考にさせた。 ◎ユニバーサルデザインを紹介し、即興で質問を聞いたり、答えたりすることができているか。（観察・タブレット）
5 振り返りをした。 （全体）	5	○話合いを通して学んだことや達成できたことを振り返ろう。 ・オーストラリアでも、ユニバーサルデザインの製品が身近なものかどうかを英語で尋ねることができた。 ・自分の話した内容が日本人の友達にも、セントアンドリューズ校の生徒にも伝わり、自分の話す英語に自信を持つことができた。 ・日本人の友達からの質問には答えることができたが、セントアンドリューズ校の生徒の質問に答えることができなかった。ネイティブの英語を正確に聞く力を高めていきたい。	○学習を振り返って文字化することで、本時のねらいが達成できたかを自己評価させた。（振り返りシート）

イ　生徒の学びの実際

（ア）　主体的・対話的で深い学びを実現する単元構想

本単元では、リテラチャー・サークル（LC）を行うこととオーストラリアのセントアンドリューズ校の生徒と話すことを学習の中心に据えた。また、本質的な問いの解決を目指すために、帯活動において、英語の問答ゲームを取り入れ、授業で学習した文法、語彙、英会話の話型を活用して、英語でユニバーサルデザインの魅力について伝え合う力を身に付けさせた。単元の最後には、パフォーマンス課題を提示し、ユニバーサルデザインをテーマとした統合的言語活動を行うようにデザインした。また、生徒に見通しを持たせるために、1枚のポートフォリオシートに、「単元の題材、活動、単元を貫く本質的な問い、CAN-DO リスト、パフォーマンス課題」を示し、生徒が単元を通して、何を身に付けていくのかをイメージさせた上で授業に取り組ませた。同じテーマでいろいろな人と会話の練習をしたことで質問の予想ができたり、問答ゲームで使用した疑問詞を LC での会話に用いたりするなど、日々の学びで定着させた知識を活用して、セントアンドリューズ校の生徒と会話する様子が見られた。

(イ)　生徒の主体的な学習への参加が可能な授業

第二言語習得のためのLCの研究では、山元（2013）が文学作品だけにかかわらず、本題材のような論説文を素材とすることでも実りある話合い活動が可能であると述べていた。また、立松・河野（2020）が、四つの役割（サマライザー、イラストレーター、クエスチョナー、コネクター）に基づいて話合いを進め、効果的に振り返りを行うことにより、生徒が主体的に英語学習に取り組むことができると述べている。LCに加えて、ジグソー学習と振り返りを効果的に取り入れることで、生徒が自らの学びの状況を認識し改善していこうとする姿勢を導き出すことができると考えた。LC 前に、ジグソー学習を行い、同じ役割のメンバー4人が集まり、話す内容の英文を添削させた。その後、LC での自分の役割を通して、どのようにすれば話し合いをうまく進めることができるかを考えさせ、目標を立てさせた。LC後に、再度同じ役割のメンバーで集まり、文字起こしを見ながら、目標を達成できたかどうかを振り返らせた（**資料１**）。生徒の振り返りには、「自分から積極的に話したつもりだったが、文字起こしを見ると、沈黙があったり正しい英語で話せていなかったりした。事前にもっと多くの問いを考えたり知っている単語を増やしたりして、話合いを活性化させたい。」と述べられており、自らの学びを分析し、その学びをよりよく次につなげていこうと調整する態度が見られた。

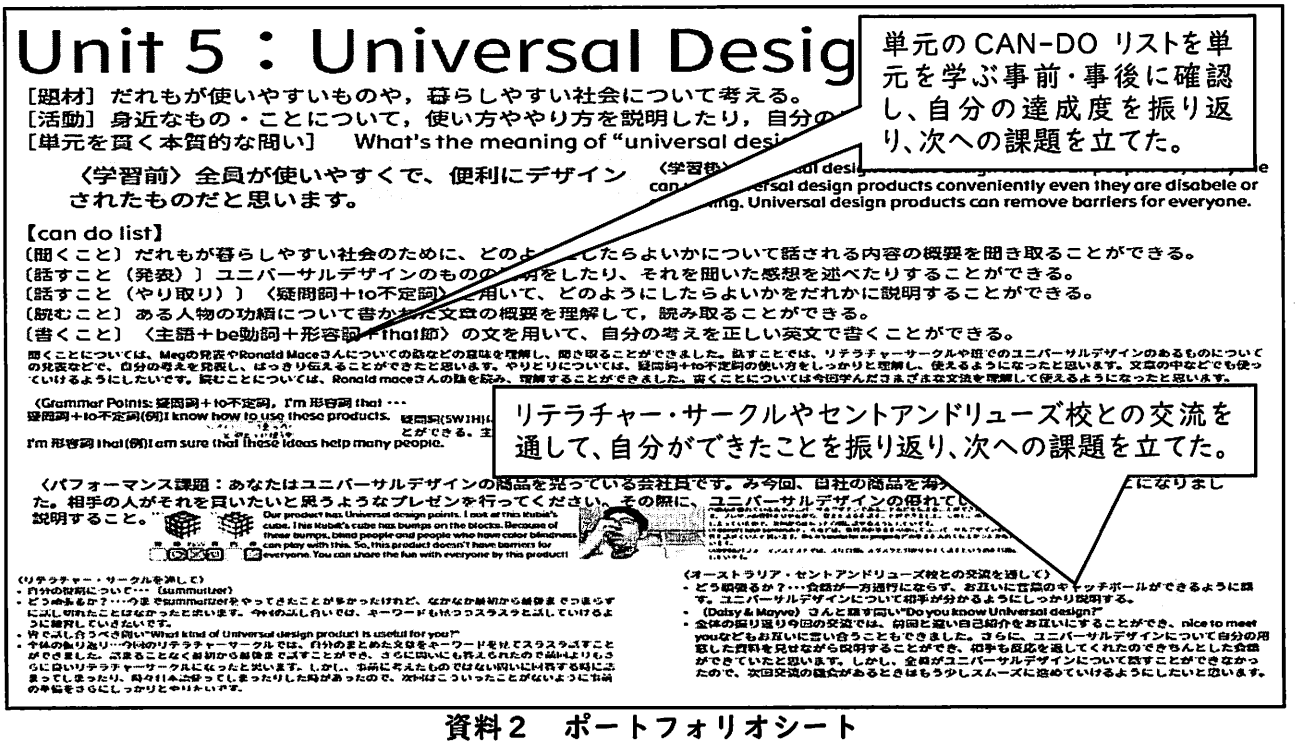
生徒A: Thank you, Mr.B. Everyone, what do you think of this? this topic?
生徒D: I think this topic is good.
生徒C: If you could create universal design freely, what kind of universal design product do you want to create?
生徒D: I ….
生徒B: I want to create automatic doors at school.
生徒C: Why ?
生徒B: Because automatic door is very convenient and uh…easy to easy.あっ easy to.
生徒D: Use ?
生徒B: Yes. Thank you, Mr.D. Easy to use for everyone. Every student can enter all classrooms easily. How about Mr.D?
生徒D: Uh…(Silent)
生徒B: OK. Pass. Mr.C.
生徒C: I want to make .

自分のセリフにマーカーを引かせて自分の発言の内容を確認させた。

資料１　LCで話した内容の文字起こしの一部

(ウ)　プロセスを重視した学習の評価・改善

生徒自身の現状と課題について認識させるために、ポートフォリオシートを用いた（**資料２**）。英語使用の間違いなど自分の学びの状況を知り、文法的に正しく、そして、相手意識を持って英語を使うことを意識させ、自ら改善していこうとする態度を持たせることをねらいとした。この振り返りを継続していくことで、達成感（自分ができたこと）や課題（自分ができなかったこと）を生徒自身に認識させ、よりよく英語を使っていこうとする意識を持たせることができた。単元の最後に自分が学んできたことを、級友やネイティブの生徒と英語で話す機会を設けたことで、自分の英語が通じるかどうかを試すことができ、自分の英語学習の達成度を振り返ることができた。シートを用いた生徒の感想には、「Unit ごとにできることが増えていき、それを積み重ねることで、今まで学んだことを生かし、できることが増えてきたように感じる。」と書かれていた。ポートフォリオシートの活用を積み重ねることで、生徒が英語力の向上を感じることのできるきっかけとなった。


Unit 5 : Universal Desig

単元のCAN-DO リストを単元を学ぶ事前・事後に確認し、自分の達成度を振り返り、次への課題を立てた。

［題材］ だれもが使いやすいものや，暮らしやすい社会について考える。
［活動］ 身近なもの・ことについて，使い方ややり方を説明したり，自分の
［単元を貫く本質的な問い］ What's the meaning of "universal desi

〈学習前〉 全員が使いやすくで、便利にデザインされたものだと思います。

〈学習後〉 universal design products conveniently even they are disabele or ing. Universal design products can remove barriers for everyone.

【can do list】
〔聞くこと〕 だれもが暮らしやすい社会のために、どのよ したらよいかについて話される内容の概要を聞き取ることができる。
〔話すこと（発表）〕 ユニバーサルデザインのものの 明をしたり、それを聞いた感想を述べたりすることができる。
〔話すこと（やり取り）〕 〈疑問詞＋to不定詞〉 用いて、どのようにしたらよいかをだれかに説明することができる。
〔読むこと〕 ある人物の功績について書かれた文章の概要を理解して，読み取ることができる。
〔書くこと〕 〈主語＋be動詞＋形容詞＋that節〉の文を用いて、自分の考えを正しい英文で書くことができる。

聞くことについては、Megの兄弟やRonald Maceさんについての話などの概要を理解し、聞き取ることができました。話すことでは、リテラチャーサークルや班でのユニバーサルデザインのあるものについての発表などで、自分の考えを発表し、はっきり伝えることができたと思います。やりとりについては、疑問詞＋to不定詞の使い方をしっかりと理解し、使えるようになったと思います。文章の中などでも使っていけるようにしたいです。読むことについては、Ronald maceさんの話を読み、理解することができました。書くことについては今回学んださまざまな文法を理解して使えるようになったと思います。

〈Grammar Points: 疑問詞＋to不定詞，I'm 形容詞 that …〉
疑問詞＋to不定詞(例)I know how to use these products. 疑問詞(SWIH)
I'm 形容詞 that(例)I am sure that these ideas help many people.

リテラチャー・サークルやセントアンドリューズ校との交流を通して、自分ができたことを振り返り、次への課題を立てた。

〈パフォーマンス課題：あなたはユニバーサルデザインの商品を売っている会社員です。今回、自社の商品を海 になりました。相手の人がそれを買いたいと思うようなプレゼンを行ってください。その際に、ユニバーサルデザインの really 説明すること。"

Our product has Universal design points. I look at this Kubit's cube. The Kubit's cube has bumps on the blocks. Because of these bumps, blind people and people who have color blindness can play with this. So, this product doesn't have barriers for everyone. You can share the fun with everyone by this product!

〈リテラチャー・サークルを通して〉
- 自分の役割について… (summarizer)
- どう伝えるか？…つまりsummarizerがやってきたことが多かったけれど、なかなか最初から最後までうまくにぶし明れたことはなかったと思います。今回のふし合いでは、キーワードを出すコツスラスラとふしていけるように練習していきたいです。
- 皆でふし合うべき問い"What kind of Universal design product is useful for you?"
- 今回の振り返り…今回のリテラチャーサークルでは、自分のまとめた文章をキーワードを出してスラスラふすことができました。つまることなく最初から最後までふすことができ、さらに問いにも答えられたので前回よりもうさらに良いリテラチャーサークルになったと思います。しかし、自前に考えたものではない問いに中断する時にこまってしまったり、時々ほんの少ってしまったりした時があったので、次回はこういったことがないように自前の準備をさらにしっかりとやりたいです。

〈オーストラリア・セントアンドリューズ校との交流を通して〉
- どう説明するか？…会話が一方通行にならず、お互いに言葉のキャッチボールができるように話す。ユニバーサルデザインについて相手が分かるようにしっかり説明する。
- (Daisy & Mayve) さんと話す問い"Do you know Universal design?"
- 全体の振り返り今回の交流では、初回と違い自己紹介をお互いにすることができ、nice to meet youなどもお互いに言い合うこともできました。さらに、ユニバーサルデザインについて自分の用意した資料を見せながら説明することができ、相手も反応を返してくれたのできちんとした会話ができていたと思います。しかし、全員がユニバーサルデザインについて話すことができなかったので、次回交流の機会があるときはもう少しスムーズに進めていけるようにしたいと思います。

資料２　ポートフォリオシート

(3) 実践と検証　その３（実践者：目崎　美香）

ア　指導の計画

（ア）単元名

Be Prepared and Work Together　（NEW HORIZON English Course 3）

（イ）単元目標

○間接疑問文と SVOO（what 節）、現在分詞・過去分詞を用いた文構造や意味を理解し、防災・安全の関心を高め、地域の一員として防災について自分の考えを伝え合うことができる。　「知識及び技能」

○防災・安全の関心を高め、地域の一員として防災について、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。　「思考力、判断力、表現力等」

○防災・安全の関心を高め、地域の一員として防災について、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。　「学びに向かう力、人間性等」

（ウ）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 間接疑問文と SVOO（what 節）、現在分詞・過去分詞の後置修飾の特徴を理解している。 [技能] 防災・安全の関心を高め、地域の一員として防災について自分の考えを伝え合う技能を身に付けている。	防災・安全の関心を高め、聞いたり、読んだりした防災について、地域の一員としての自分の考えたことを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	防災・安全の関心を高め、聞いたり、読んだりした防災について、地域の一員としての自分の考えたことを簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。

（エ）評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは、地域の外国人の方に災害時に通るべき避難ルートと地域の避難所について説明することになりました。地域の実態を調査し、外国人の方からの質問にも答えながら分かりやすく伝えなさい。	○課題追究状況の観察 ○ワークシート ○振り返りシート

（オ）パフォーマンス課題についてのルーブリック

条件１：読んだ英文を引用するなどしている。
条件２：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
条件３：相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしている。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障の無い程度の英文を用いて話すことができる。	三つの条件を満たしてやりとりしている。	三つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
C	[B] を満たしていない。	[B] を満たしていない。	[B] を満たしていない。

（カ）指導計画（全 12 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	評価規準（評価方法）
1	Unit 4 扉/ Preview / 防災・安全・扉や Preview のリスニングを通して、間接疑問文や後置修飾の文構造に気付かせる。	知	・間接疑問文や後置修飾の文構造に気付いている。（ワークシート）
2	・間接疑問文（疑問詞＋主語＋動詞）の文構造を理解し、運用する。	知	・間接疑問文の文構造を理解し、適切に運用している。（ワークシート）

3	・SVOO(what 節)の文構造を理解し、運用する。	知	・SVOO(what 節)の文構造を理解し、適切に運用している。（ワークシート）
4	・現在分詞や過去分詞の後置修飾の文構造を理解し、運用する。	知	・後置修飾の文構造を理解し、適切に運用している。（ワークシート）
5	・Scene①の内容理解を通して、災害への備えについて、自分の言葉で伝えることができるようにする。	思	・本文内容の概要や要点を的確に理解して伝えている。（ワークシート・タブレット）
6	・Scene②の内容理解を通して、災害に備えて何を準備すべきかを説明できるようにする。	思	・本文の内容から、災害に備えて何を準備すべきかを自分の言葉で伝えている。（ワークシート）
7	・Read and Think①の内容理解を通して、災害時に外国人を支援するためにできることを説明する。	思	・本文の内容から、災害時に外国人を支援するためにできることを自分の言葉で伝えている。（ワークシート）
8	・Read and Think②の内容理解を通して、自分の言葉で伝えることができるようにする。	思	・本文内容を理解し、ピクチャーカードを使用しながら、英語で概要を説明している。（ワークシート・タブレット）
9	・Unit Activity でいざというときに役立つ標識について説明できるようにする。	思	・いざというときに役立つ標識について、自分の言葉で説明したり、書いたりしている。（観察・タブレット）
10	・自分が住んでいる地域に関するハザードマップ等を確認し、防災・安全に関する意識を高める。 ・調べた資料を通して、地域住民が安全に避難するためにはどうすれば良いか、自分の考えをまとめる。 「AI 英会話講師」 「AI 英作文添削」活用	態 思	・自分が住んでいる地域に関する防災・安全に対する考えを深めようとしている。 ・地域住民が安全に避難する方法を考え、資料を収集したり、発表資料を作成したりしている。（タブレット） 〈支援〉教科書の単語を用いて表現することができるよう、声掛けをする。
11 本時	・自分が住んでいる地域住民が安全に避難するために、自分たちができることを伝える。 「AI 英会話講師」活用	思	・自分が住んでいる地域住民が安全に避難するために、課題やするべきことを考えて述べている。（観察）
12	・パフォーマンス課題	知 思 態	（パフォーマンス評価）

イ　指導の実際（11/12 時間）

（ア）主題

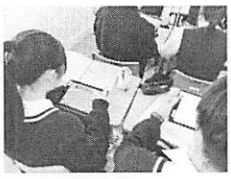
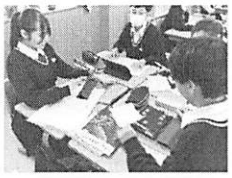
AI との英会話練習を生かし、自分が住んでいる地域の住民が安全に避難するために、自分たちができることを伝えよう

（イ）ねらい

AI との英会話練習で培った力を生かし、自分が住んでいる地域の住民が安全に避難するために、自分たちができることを考えて述べている。

（ウ）展開

学習活動(形態)	時間	○教師の働き掛け　・生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1　Warm-up （ペア）	10	○AI と話したことを基に友達と話させた。 A:My town has the local shelter. B:Do you know where it is? A:I know it but it is far from my house. B:You should know how to evacuate to the local shelter.	○AI との会話を生かして、地域の防災について自分の考えを友達に伝えるために、AI Tutor のノートを活用させた。
学習課題：AI との英会話練習を生かし、自分が住んでいる地域の住民が安全に避難するために、自分たちができることを伝えよう。			

2　内容を理解した。（個人） 	10	○友達と話したことを基に、もう一度 AI と会話させた。会話が終わった者には、自分が住んでいる地域の防災に関する考えを AI に添削させた。 ・I want to talk about disaster control.	○自分の意見や考えを深めるために、AI を活用させた。
3　話題についてのやり取り取りした。（グループ） 	20	○自分が住んでいる地域の住民が安全に避難する方法について紹介させ、他の生徒からの質問に答えさせた。 ・写真等を見せながら、紹介させた。 ・My town has the local shelter,　but it is far from my house. Also, there is a small river near my house. We must take care of it if it rains heavily because it can cause flooding. ○グループ内で役割分担をし、話合いを活性化させた。 ・司会者が話合いを進め、他の生徒に質問させた。 ○全員が発表し終わったら、Feedback Sheet に記入し、自分の意見を伝えさせた。	○話題を深めるために、自分たちが安全に避難するための課題やできることを表現させた。 ○発表者の意見を引き出すために、5W1H を意識し質問を工夫するよう声掛けした。 ◎自分が住んでいる地域の住民が安全に避難するためのルートや避難に対する課題を相手に伝えるために、簡単な単語や短い英語で説明しているか。（観察）
4　活動内容の共有をした。（全体）	10	○グループの発表の中で、参考になった英語表現について発表させた。 ・間接疑問文など今までに学んだ文型をたくさん使っていた。 ・避難所へのルートが地域住民に伝わった。 ○振り返りシートに記入させた。	○振り返りを次時に生かすために、授業を通して考えたことを発表させた。 ○個人の課題を明確にするために、全体での振り返りを参考に書かせた。

ウ　生徒の学びの実際

（ア）主体的・対話的で深い学びを実現する単元構想

VUCA 時代において、生徒の ICT 機器を活用するスキルは、一層重要性を増している。本研究では、言語教育におけるメタ認知を育成するための新たなアプローチとして、「AI 英会話講師」（AI とのインタラクティブな英会話練習）と、「AI 英作文添削」のウェブチャットボットを活用してきた。

「AI 英会話講師」とは、生成 AI が生徒の英会話練習のパートナーとなり、生徒が選んだトピックに沿って英会話を行うシステムである。AI は英語を学習している CEFR A1 レベルの中学生としてロールプレイを行い、会話終了後に文法やフレーズに関するフィードバックを提供する。昨年度は、ChatGPT が入ったタブレット PC をグループに 1 台用意し、交替で使用していた。しかし今年度は、家庭でも学習を進めることができるよう、保護者に承諾書を取り、生徒の個人端末にインストールして使用した。そうすることによって、生徒はいつでも英会話練習をすることができ、AI による適切なフィードバックを瞬時に受けることで、自分の英語力を向上させることができた。本単元では、AI と会話したことを基に生徒同士が、自分が住んでいる地域の住民が安全に避難するために、課題や自分にできることについて何度か英会話を試みた。生成 AI を活用したトレーニングを続けることを通して、生徒の「話すこと［やり取り］」の力を向上させる一助になると考える。

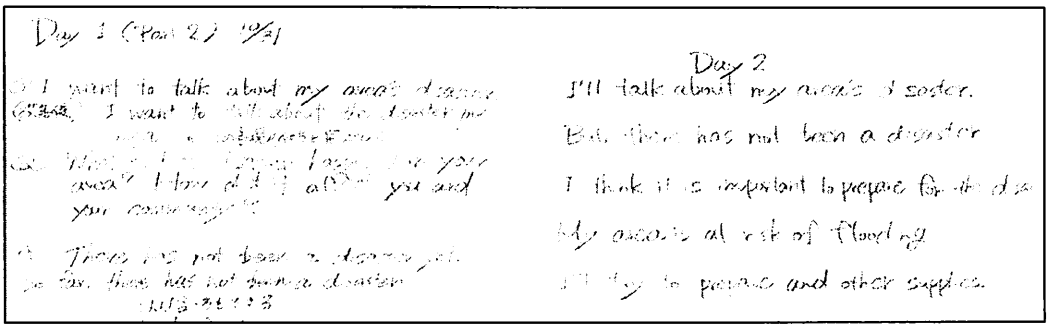
「AI 英作文添削」は、音声入力で入力された英作文を AI が分析し、添削すべき箇所とその理由を解説するシステムである。このシステムでは、全体的な文章の印象や良い点、文法・語

いなど言い換え表現を含め、細部において添削を受けることができる。生徒一人一人に合わせたフィードバックを提供することで、生徒の弱点を効率的に改善することが可能となった。AIを活用することで、「話すこと［やりとり］・［発表］」の力を実際に可視化し、生徒自身が客観的に振り返り、個別最適化の学習が実現でき、話す力の向上につながった。

（イ）生徒の主体的な学習への参加が可能な授業

（ア）のウェブチャットボットを使用し、「AI Tutor ノート」と名付けて家庭学習を進めた（説明動画参照）。DAY３では、授業の導入において、実際に DAY１で話したことを基に２分間ペアで会話を続ける。DAY１で話した内容が終われば、オリジナルの質問を追加することで２分間は会話が続くよう目標を設定した。また、会話終了後に振り返りを行い、次への課題を確認することにしている。初期段階では、本人が話しやすいトピックを設定するが、教科書の内容についても会話が続くよう、教師側からもトピックを設定し難易度を調整した。これらの内容を繰り返し行うことによって、生徒自身の「話すこと」や「書くこと」への抵抗感を軽減させ、スムーズな英語表現へとつなげることができた。

AI Tutor 説明動画



資料１ AI Tutor ノート

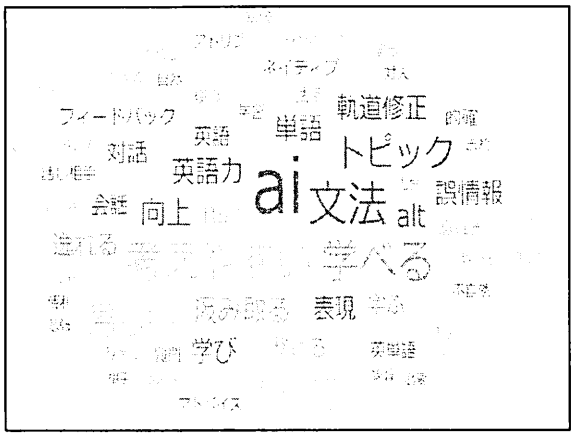
（ウ）プロセスを重視した学習の評価・改善

英語で他者と話すことは、ダイレクトに相手の反応が返ってくるため、既存の知識を実際の場面に即して使用し、自分の英語表現を自己分析する良い機会である。本単元では、自分が住んでいる地域の住民が安全に避難するために、課題を発見し、自分たちができることを伝えた。グループ内で発表して質問に答えたり、アドバイスをもらったりすることによって、個人では気付けなかった間違いや、言い換え表現に気付き、自分の英語表現をよりよく改善することができた。多様な考えに触れることを繰り返し、他者からの視点を取り入れ、自分の考えと比べ、自らの学びを調整する力を高めることが、個々のメタ認知力を高めるためには必要であると考える。

さらに、今年度は生徒の振り返りシートをデジタル化した。そうすることによって、生徒へのフィードバックも確実に行うことができ、その上、生徒の質問事項から自らの授業を分析して、次時の授業への取組に生かすことが可能となった。

AI テキストマイニング（ユーザーローカル）https://textmining.userlocal.jp/を使用し、学習前後の生徒の変容を分析した（資料２）。スコアが高い単語ほどその値に応じた大きさで図示している。

生徒は、AI を使用することによって学習効率が高まると感じており、家庭でも対話練習できるという点で、英語力を向上させることができると述べていた。生徒の感想では、「適切な表現や単語のつなげ方などを学ぶことができた。」「分からない英単語や自然な対話の仕方を分かりやすく教えてくれた。」とあるように有用性を感じたようである。



資料２ 生徒の変容分析

4　研究の成果（○）と課題（●）

(1)　主体的・対話的で深い学びを実現する単元構想

○生徒と CAN-DO リストを共有することで、学習に見通しが立ち、生徒自身が自己の学びを客観的に振り返ることができ、エージェンシーの発揮につながった。

●CAN-DO リストの達成目標の難易度によって、生徒が自己の学習プロセスを的確に振り返ることができないことがあった。

(2)　生徒の主体的な学習への参加が可能な授業

○生徒が協力しながら「聞くこと」「話すこと［やり取り］［発表］」「読むこと」「書くこと」が統合された言語活動に取り組むことで、自己の学びを深め、現状をよりよくしようとする態度が見られた。

●グループやペアによって学習進度に差が生じることがあったので、グループメンバーの工夫や個々の生徒に合わせた役割を与えることが必要だった。

(3)　プロセスを重視した学習の評価・改善

○ChatGPT や ICT を用いた振り返り活動を取り入れることで、生徒が自己の学習を調整しながら授業に取り組み、エージェンシーを発揮する姿勢が見られた。

●ChatGPT や ICT を用いた活動に多くの時間を使ってしまうことがあったので、英語力を身に付けさせるための効果的な活用方法を考えていきたい。

参考文献

○実践と検証　その１

・胡子美由紀（2016）「英語で行う英語授業のルール＆活動アイディア」明治図書

・酒井英樹、廣森友人、吉田達弘編（2018）「学ぶ・教える・考えるための実践的英語科教育法」大修館書店

・中嶋洋一編（2023）「英語教師の授業デザイン力を高める３つの力」大修館書店

・サラ・マーサー、ゾルダイン・ドルニェイ著/鈴木章能、和田玲訳（2022）「外国語学習者エンゲージメント」アルク

・菅正隆編（2023）「英語授業の「個別最適な学び」と「協働的な学び」小・中学校のアイディア３６」明治図書

○実践と検証　その２

・山元隆春（2013）「本を読んで語り合うリテラチャー・サークル実践入門」渓水社

・立松大祐、河野圭美（2020）「英文を読んで話し合う協同学習の授業モデルづくり-リテラチャー・サークルの実践から-」英語授業研究学会紀要

○実践と検証　その３

・OpenAI.(2024).ChatGPT(November 10 version)[Large language model]https://chat.openai.com (参照日 2024.11.14)

・三宮真智子（2022）「メタ認知あなたの頭はもっとよくなる」中央公論新社

・谷口恵子（2023）「AI 英語革命 ChatGPT で英語学習を 10 倍効率化」リチェンジ